

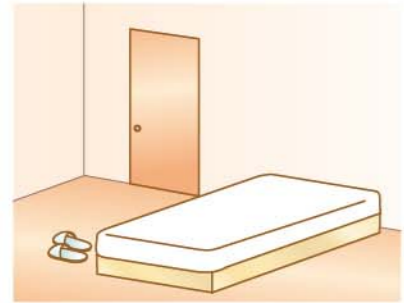
家具転倒防止対策

阪神・淡路大震災時に、建物の中でけがをした人の約半数(46%)は家具の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。これにガラスの飛散によってけがを負った人(29%)を加えると、実に4分の3の人たちが家具やガラスでけがをしたことになります。つまり、家具をしっかり留めて、ガラスの飛散防止対策を施せば、震災時に多くの人は、けがから身を守ることができます。

家具転倒防止対策のポイント

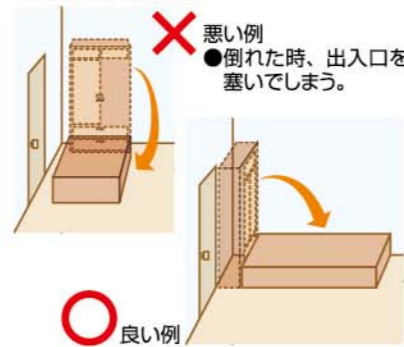
① 部屋に物を置かない

納戸やクローゼット、据え付けの収納家具に収納するなど、できるだけ生活空間に家具類を置かないようにします。特に睡眠中に地震があった際、寝室は逃げ遅れる危険が高いため、最小限の家具類を置くようにしましょう。



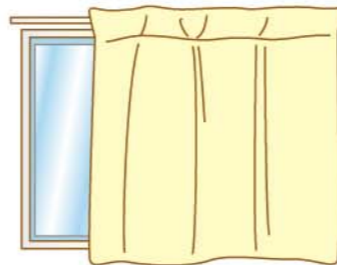
② 避難経路の確保

ドアや避難経路を塞がらないように、家具配置のレイアウトを工夫しましょう。部屋の出入口や廊下には家具を置かないように、据え付けの戸棚に収納します。さらに引き出しや中身飛び出しにも注意し、置く方向を考えます。



③ ガラスの飛散防止・危険物の落下防止

ガラスの飛散防止フィルムを貼った上で、薄いレースやカーテンを開けておくことで飛散防止力が高まります。また、落下防止対策として、家具類の上にガラス製品を置かないようにしましょう。



家具転倒防止対策器具一例

●L字金具	●ポール式器具 (つっぱり棒)	●マット式器具	●ストッパー式器具
家具と壁にビスで固定するタイプ	天井と家具の間に差し込むタイプ	家具の底面にくっつけるタイプ	家具の下部に差し込むタイプ

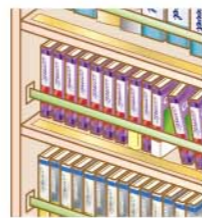


組み合わせ耐震対策

「ポール式とマット式」、「ポール式とストッパー式」の2つを組み合わせるとL字金具と同等の効果を得ることができます。壁に穴を開けられないなどの事情でL字金具を取り付けられない場合は、器具を組み合わせるなど工夫をすることで、家の状況にあった対策を行うことができます。

落下防止器具

本や食器が滑り落ちないようにするための器具で、本棚の前面にテープを貼付するタイプ、バーで防ぐタイプ、物の下に敷くタイプといくつか種類があります。自宅の家具に合ったものを選びましょう。



火災対策

火災の原因の多くは、火の取扱不注意や不始末によるものです。普段の心がけやメンテナンス次第で防げるものが大半です。また、放火による火災も一向にありません。

大地震後に発生する火災は、被害をより大きくしています。阪神・淡路大震災でも家屋から発生した火災が被害をより大きくしました。個人での心がけとともに、地域ぐるみでの防火に対する取組が大切です。

住宅用火災警報器の設置

住宅用火災報知器は、火災により発生する煙や熱を感知し、音声や警報音により火災の発生を知らせてくれる機器です。定期的にはほこりを取り除いたり、点検を行うなどしましょう。

寝室や階段の天井を中心に設置基準が定められていますが、住宅の規模・形態により異なりますので、詳しくは消防署へお問い合わせください。

問合せ先

- 埼玉県南西部消防局予防課(048-460-0121)、又は新座消防署消防課(048-478-1311)

悪質な訪問販売に注意!

住宅用火災警報器は、量販店等、防災用品を販売する店舗や業者等から購入が可能です。消防署や市役所の職員が一般住宅を訪問し、住宅用火災警報器を販売することはありません。悪質な訪問販売に十分注意しましょう。「おかしいな」と思ったら早めに新座市消費生活センター(048-424-9162)にご相談ください。

火災を防ぐ7つのポイント

日頃から消火用具の備えや火の始末を習慣づけることが大切です。何気ない普段の行動や癖が火災の原因になっていることがあります。火を扱うことに慣れすぎている生活パターンを見直し、改めるべきことはすぐに実行しましょう。



2 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。



3 外出時や寝る前には、ガスの元栓や火の始末を忘れない。



4 花火などは消火用の水を準備してから。風の強いときにはしない。



5 ライターやマッチなどで子どもが遊ばないように注意する。



6 電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。



7 ストーブなどのそばに燃えやすい物を置かない。

消火器の使い方

- 1 安全栓を引き抜き
- 2 ホースを火に近づけて
- 3 レバーを強く握る